

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○6月17日～

先週は日米で金融政策の発表がありました大きな混乱にはなりませんでしたが。

米国は少し利下げが遠のいたような感じがありますがサプライズもなく、秋以降に利下げが行われるかどうか注目が集まります。

日本は今回特に政策変更はなく、次回会合の7月に国債買い入れの減額を開始するというのも想定内の動きです。

利上げについてはまだ不透明で、7月に利上げをするのかも気になります。

今週、全国消費者物価指数が発表されるので物価上昇がどの程度かも確認しておきたいです。

先週のマーケットは少し乱高下しましたが、終わってみると先週と比べて大きく動いていません。

中長期的には日本は金融引き締め確実に動き出しているため円安抑制にはなりそうです。

米国は年初の予想からすると利下げがかなり遅れてきましたが方向性としては利下げに動くことは確実です。

ドル/円はファンダメンタルで見ると年後半にかけて円高ドル安の動きが出やすくなります。

そうは言っても日米の金利差は簡単には縮まらないため、テクニカルで見て完全にトレンド転換するまでは、ドル高トレンドは続くと考えてトレードしないといけません。

欧州については政治的なイベントにも注意がいります。

7月最初に英国で選挙がありますがフランスも30日に下院の選挙があり、警戒感からユーロ安の動きになるかもしれません。

欧州では極右の政党が票を伸ばす動きが目立ちます。

最近の選挙では、世界的に与党が票を減らす動きが見られ、政治不安が出てくるとマーケットにも影響が出ます。

今月末から来月初めにかけて英国とフランスで選挙があるためポンドもユーロも不安定な動きになるかもしれません。

政治リスクを避けたい場合、欧州通貨を避けて、カナダドルやオセアニア通貨に目を向けたいです。

今週は英国やオーストラリアで政策金利の発表がありますが予想は金利据え置きとなっています。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週のドル/円は日銀金融政策決定会合後に一瞬158円を超えましたが欧米時間には再び下げ、157円台でマーケットは終わっています。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

158円超では介入警戒感が強まるため上値が重くなってきそうです。

基本的には方向感のない動きが継続中で、156-158円程度のレンジをウロウロしているような状態です。156円あたりまで下がると買いが入りやすく、158円あたりでは利益確定が出やすいという状況が続きそうです。

指標発表後に下がることがあれば、買いが入ってすぐに戻す動きが続いています。

テクニカルで見るとゴールデンウィーク明けから順調に上昇が続いている形なので、6月初めの安値154円台半ばを維持している間は上昇トレンド継続と考えていいと思います。

先週高値の158.3円あたりを超えてくると危険ゾーン突入なので、買いは様子見で、場合によっては少額の試し売りで対応してもよさそうです。

<気になるクロス円>

クロス円は今月に入ってから方向感がわかりにくいペアが多く、ユーロは月初から下げてますがカナダドル、オセアニア通貨(豪ドル、NZドル)はレンジのような動きになっています。

方向感がはっきりしないのは、各国の金融政策や政治面で不透明感が強く、予想が難しくなっている面もあると思います。

基本的には、上昇トレンドが崩れるまでは下げ止まれば買いの戦略です。

ユーロはドルに対しても円に対しても下げているので、売りを検討してもいいかもしれません。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル?>

日本では4月機械受注、5月貿易統計、日銀・金融政策決定会合議事要旨、5月全国消費者物価指数などがあります。

米国では6月ニューヨーク連銀製造業景気指数、5月小売売上高、5月鉱工業生産、4月対米証券投資、6月NAHB住宅市場指数、1-3月期四半期経常収支、5月住宅着工件数、6月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、前週分新規失業保険申請件数、6月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、5月景気先行指標総合指数、5月中古住宅販売件数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで6月ZEW景況感調査、6月製造業・サービス業PMI(速報値)、ユーロ圏で5月消費者物価指数などがあります。

ほかには、オーストラリア、スイス、英国で政策金利、ニュージーランドで1-3月期GDP、英国で英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨の発表などがあります。